

こんぺき

静岡市稲門会
会報 第7号
2019.12.10

校友会静岡県支部長に陰山氏を選任

2019 静岡県稲門祭が、6月23日(日)、ホテルコンコルド浜松において開催されました。同時開催の早稲田大学校友会静岡県支部総会では、県支部長の任期満了による役員改選が行われ、新支部長に当静岡市稲門会の陰山正敏会長が選任されました。

陰山正敏氏は新支部長就任に当たり、県内稲門会同士のネットワークと交流をより強化し、時代に対応できる大学と校友の関係に貢献していきたいと抱負を述べました。



また陰山氏の明るく楽しい支部運営をとの宣言に対し総会参加者全員から大きな拍手で賛意が寄せられました。

◇初の女性幹事長誕生

県支部事務局も当静岡市稲門会で引き受けることになり、石渡裕子さんが県支部初の女性幹事長として就任、会計の市川裕宣氏、事務局長の小長谷建夫氏が新体制を支えることになりました。

静岡市稲門会総会

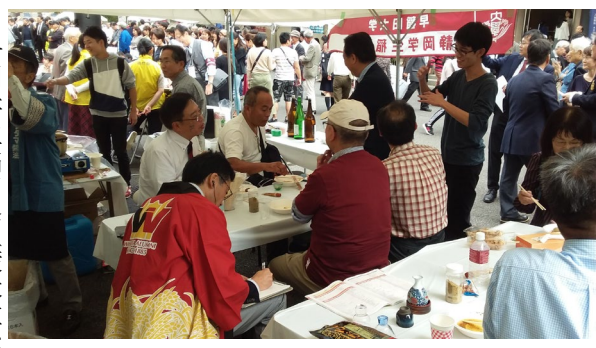
5月10日、グランディエールにおいて令和元年度静岡市稲門会総会が開催されました。本年度は会長改選期に当たり、役員会推薦で陰山正敏会長の留任につき諮ったところ、出席者全員の賛同が得られ、新体制が発表されました。

またその他の議題につきまして原案通り可決いたしました。

◇当会新幹事長には吉田昌弘氏

新役員は以下の通り(敬称略)
会長 陰山正敏(昭44文) 副会長 大高圭介(昭45商)、小長谷建夫(昭45商)、木宮岳志(昭51法)、石渡裕子(昭52教)、小川満(昭53政)、市川裕宣(昭54商) 幹事長

大隈重信公銅像前で



終日賑わった静岡ブース。県内からも遠州、三島市、南伊豆ら各稲門会会長や校友が訪れ、売りに貢献していただきました。有難うございました!

「しぞーかおでん」

副幹事長 吉田昌弘(昭50文) 事務局長 横山泰久(昭59商) 濱史教(平20政)、会計 内田知志(昭46文) 会計監査 増田悦男(昭36政) 顧問 大村栄一(昭36商)、石川禮一郎(昭38商)、金原壮治(昭39商)、石上頭太郎(昭52理)、田辺信宏(昭60政)、丹澤卓久(平5政)、尾崎剛司(平15教)

おでんをメインに、遠州稲門会並びに静岡市稲門会寄贈の「うなぎパイ」や「安倍川もち」に加え、静岡の銘酒「磯自慢」「臥龍梅」「喜久酔」なども販売され、終日全国の校友達が賑わいました。当日の売り上げはすべて学生稲門会に贈呈されました。陰山正敏県支部長はじめ、当稲門会からも内田知志さん、市川裕宣さんが学生とともに運営に汗を流してくれました。

静岡学生稲門会(塚本真裕会長)の要請を受け、静岡県支部では拡大役員会でカンパされた資金をもとに、10月20日の早稲田大学構内における稲門祭での模擬店出店に協力しました。模擬店では静岡



田辺信宏静岡市長も駆けつけ、本県PR貢献に感謝の意が表明されました。

OB・OG通信

静岡の魅力の世界に伝えたい

鈴木貴子さん

(平14年院・アジア太平洋研究所)

7年ほど前にインバウンドコンサルタントや留学カウンセラーを行うための「Global Jam(株)」を立ち上げ、現在その代表を務めています。世界で一番いい場所と思う静岡の魅力を、多くの海外の人たちに知ってもらうことと、それを実感してもらうために静岡の人たち(シニアから中高生まで)の海外留学や海外体験をお手伝いしています。今年度は、内閣府が実施する「国際社会青年育成交流事業」のヨーロッパ派遣団の副団長として、リトアニア、オーストリアを訪問しました。また数年前から静岡県立大学の学生に対し、「静岡におけるインバウンド」等のテーマで講義を行っています。



茶道や友達との交流でリフレッシュします

静岡商工会議所のシーズネットワ

ーク渉外委員長などもお引き受けし、多忙な毎日ですが、昔から習っている茶道で心を落ち着かせたり、気心の知れた仲間とおいしいものを食べたりして、心身のバランスをとっています。

地球科学研究の道を

竹林知大さん

(平29年院・地球環境資源理工)

現在、静岡大学大学院で宇宙・地球科学STEM教育の研究をしています。また「ふじのくに地球環境史ミュージアム」で客員研究員を、山梨大学では非常勤講師となり、教育活動も行っています。



地球からのメッセージを石から読み解きます

この道を選んだのは、幼い頃から星が好きで、星を研究する職業に就きたいと思っていたからです。

子供たちに自然の美しさや不思議さを伝え豊かな心を持った人になつてもらいたいと願っています。

静岡には素晴らしい自然の恵みや風景があり、なによりも人々の温か

さがあります。こんな豊かな静岡で勉強できることをとても嬉しく感じ

ています。稲門会の皆様方にいろいろご指導いただければ幸いです。

第2回大学野球オータムフレッシュリーグ in 静岡

早稲田大学など大学10校、地元高校6校が出場。当会が支援

大学野球若手チームと地元高校が参加する「オータムフレッシュリーグ」が昨年に引き続き、11月22日〜24日の3日間、草薙球場など県内3会場で開催されました。



松前球場での早大対中京大。2対2の引き分けでした。

開されました。早稲田大学の成績は、慶応、静岡に2-4の同スコアで負け、国学院に3-1で勝利、中京に2-2と1勝2敗2分けとなりました。

◇早慶麻雀大会は稲門会優勝

9月13日(金)麻雀荘「駅南」で開催。個人戦では稲門会の栗田雅之さんが優勝。チーム戦も団結力発揮の早稲田に軍配!

◇早慶ゴルフは三田会優勝

10月27日(日)菊川CCで開催。優勝杯は団体、個人とも三田会に来年まで預けることになりました。

「こんぱき」に皆様の情報をお寄せ下さい

静岡市稲門会事務局

〒422-8072 静岡市駿河区小黒

一丁目4番30号・陰山正敏方

TEL 070-5649-7143 (陰山)

FAX 054-285-0151

メール shirahama23@gmail.com

(事務局長 白濱史教)

編集長 小長谷建夫

実行委員会主催、静岡市の共催で、当会も協力団体となっています。22日は雨天中止となりましたが、あとの二日間は晴天に恵まれ、草薙、清水庵原、松前各球場で熱戦が展

お仕事中、おじやまします 校友の職場訪問

政治、経済、教育、文化等様々な分野で活躍する本会会員。その職場を訪問させていただきました。お忙しいところ有難うございました。

あらしお(株)専務取締役

川島 由紀さん(平2文卒)

その昔駿府の久能浜で作られていた塩が、江戸や東京の料亭で重用された「久能の塩」というブランド商品であったことをご存知でしょうか。

工業の近代化とともに天候に係なく効率よく塩を生産する画期的な技術が開発され、これにとまない全国にあつた昔からの塩田は廃止を義務付けられました。ところが、料理人や家庭の主婦から、昔ながらの馴染みやすくまるみを持った味の塩が欲しいとの声が強くなり、戦後専売公社の委託を受けて、従来の塩作りを始めたのが「あらしお(株)」のスタートとなりました。

川島由紀さんは大学卒業後、SBSのテレビ制作現場で8年間働いた後、父親の川島康孝さん(ともに校友)が社長を務めるあらしおに入社。現在は専務として社長の片腕となつて活躍中です。

もともと川島家が塩作りを始め

のは、由紀さんの曾祖父の時代(1906年)といえますから、すでに100年を優に超える家業ともいえます。今では、伝統の技術を生かしながら現代の食生活に合った「あらしおブランド」として、全国から海外へと販路を広げています。



日本料理を扱ったテレビ番組の中で有名な料理人の調理場に「あらしお」が置いてありましたと笑顔の由紀さん

塩は料理にとつて脇役ですが、なくてはならない最も重要なもの。おいしい塩への消費者の期待に応え続けていくのが会社の使命と由紀さん。今は仕事を中心に、時間がなかなかとれませんが、ヨガなどで心身の活性化を図っているとのことでした。

静岡法律事務所・弁護士

池田剛志さん(昭63法卒)

静岡法律事務所は葵区馬場町にあり、数多くの弁護士を擁する県内最大級の法律事務所で、主に一般市民の生活に関わる諸問題を扱っています。頼りになる町の法律事務所といった感じでしょうか。

池田さんは平成13年に同事務所に入り、現在は事務所の中でもベテランの弁護士として活躍中です。また今年からは県弁護士会副会長を務めるなど、多忙の毎日を送っています。

若い時から弱い人たちの役に立つような仕事をしたという気持ちが強くなり、弁護士を志すことになったこと。通常の仕事の他に、犯罪被害者支援センターの理事などを受けているのも、その正義感の現れなのでしょう。



温泉にゆっくり浸かりたいけど、なかなか時間が…

弁護士としての守備範囲は一般市民が抱える様々な課題から医療訴訟などまで幅広く扱います。

弁護士というのは、地道に事案の内容や関連法を調べたり、それを文書化したりという作業が多く、テレビのドラマなどで見られるような派手な仕事ではありませんよと優しく笑いながら説明してくれました。

社会貢献と仕事の両立を

また県弁護士会が行う講演会や無料相談会などの他、市民の法律への敷居を低くするための映画上映会など、副会長として果たさなければならぬ業務も多くあり、家族サービスもままならない毎日です。当面の目標は、弁護士会の社会貢献活動と普段の弁護士業務の両立を図ることとことです。

池田さんにとつてのストレス解消法は、仕事をこなすことといいます。確かに仕事のストレスは、気になる仕事を片付けていくことが一番の対処法かも知れません。尤も、医療訴訟で必要な医療情報を調べるなど、大いに知的好奇心が刺激されるといいます。池田さんならではの解消法とも言えますね。かつては「日本秘湯を守る会」に入っていて、バスも通わぬような全国の秘湯を巡ったこともあったとのこと。県弁護士会の重責は1年間。ゆっくり温泉の夢はその後までお預けかも知れません。

理研軽金属工業代表取締役社長

入山 豊さん(昭61政経卒)

駿河区曲金の本社・工場へ向うと、入山社長が笑顔で出迎えてくれました。まずは理研を知っていただき、まずと案内されたのは会社の創業時からの歴史と生産技術や最新商品などが展示されたショールームです。

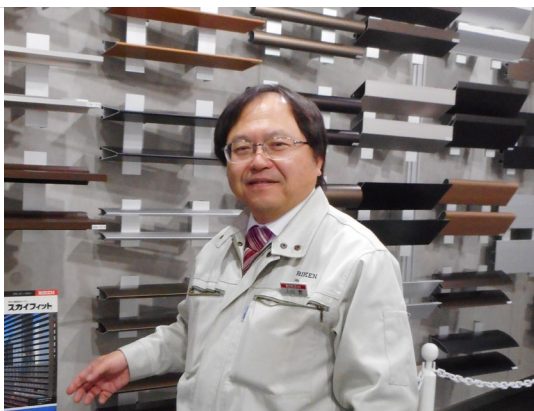
会社は昭和12年、財団法人理学研究所の静岡工場としてスタート。そこからアルマイト加工とアルマイト漆器の大量生産が開始されました。戦後すぐは日用品、家庭器物が主力商品でしたが、40年代からアルミの押出型材による建材中心へと移行、55年に日本軽金属の全額出資のもと、現在の社名となりました。

会社80周年時に社長就任

入山さんは大学卒業後、日本軽金属に入社、主として人事部門、執行役員を歴任し、平成29年理研軽金属の社長に就任しました。

就任時は丁度会社が設立80周年を迎えた時でしたが、現在はすでに次の時代を見据えた長期戦略も検討しています。その①は、現在の主力商品である外装建材の強みをさらに強化すること。②は第2の柱となるべき商品の開発であり、その③は人材の養成、技術や資産の更新

等々持続可能な会社の基盤作りであるとのことでした。



独自技術の結晶である一つひとつの生産品を丁寧に説明して下さいました。

そして、100周年は創業の地である現在の場所で、地域に根差し地域とともに発展する会社でありたいと、静岡人にとつては大変嬉しい抱負を述べていただきました。

趣味はゴルフ、映画鑑賞、読書など。ゴルフの腕前は100前後、映画は邦画の楽しいものが好きといいますが、体力維持のためジムへ通っていますが、最近は忙しくて月1、2回のペースで反省しているとのこと。

現在単身赴任中ですが、食事は自分で料理して食べており、それがなによりの健康法と言えそうです。

県立静岡東高等学校 校長

笠井 義明さん(昭58教育)

笠井さんが教育者を目指したのは、高校時代バスケットボール部で出会った素晴らしい先生のおかげでとても楽しく充実した高校生活を送ることができたことにあります。次の若い世代にもこうした思いを味わって欲しいと思ったことが教職への道を選びました。

母校の校長に就任

大学卒業後、県立沼津工業の定時制を皮切りに、静岡市立、静岡、清水東、教育委員会、静岡、三島北を経て、富士宮東の校長を2年の後、本年母校である静岡東高校長に就任しました。



生徒の成長を感じるのがなによりの喜びと笠井校長

静岡東高の14期生である笠井校長は、生徒全員が自分の後輩に当た

るわけで、生徒には一層の親しみを感ずるとともに、その教育に強いやりがいを感じているとのことでした。

少子高齢化、グローバル化、人工知能の飛躍的な進歩など、生徒たちがこれから向き合わなければならぬ社会は益々激しい変化を遂げ、生徒指導では、時代に対応できる資質や能力、またはその土台となるべきものを育んでいくことを主眼としています。

笠井校長は、今の生徒たちが、こうした力を身に付け、新しい時代を担い、さらには次の世代へと引き継いでいってもらうことが、教育者としての喜びと目を輝かせていました。

県内には早稲田大学出身の教育者も多く(高校長は3人)、笠井校長がそれをまとめる静岡県高等学校教育稲門会の会長を務めています。趣味はスポーツ観戦やジョギングです。特にジョギングは、その成果を試そうとホルルマラソン、台北マラソン、掛川新茶マラソンなどにも出場したとのこと。夢は、もう一度ホルルマラソンを完走してみたいとのことですが、しばらくは我慢が必要のようです。

今回の取材も、保護者や生徒との面談の合間を縫って時間を作っていたいただきました。多忙な毎日とのことですが、教育者としての情熱が、こちらにも伝わってきました。